

推敲あれこれ

……………

最終回



狩野一男×高野公彦

◆具体的に詠み込む

高野 歌の推敲について選者の皆さんにお話を伺って来ました。今回はいよいよ最終回で、狩野一男さんに登場してもらいます。今までずっと電話で対談しましたが、このところ狩野さんが多事多忙なので、二人が別々に推敲例を示して説明することになりました。それでは狩野さんから。

冬が来る大きな命をこの世から攫つて行つた冬がまた来る (原作)

冬が来る 歌人椋二をこの世から攫つて行つた冬が また来る (改作)

狩野 原作は全体的に大仰な作りで、こ

とに二句目の「大きな命を」が大袈裟すぎます。攫われたのは何か？ 例えば北極熊とか月の輪熊とか、具体的に詠み込むべきです。歌会などで悪評を買うのは当然です。じつは、これはほくの作品で、何回も作り直して歌集に入れました。宮先生を攫つて行つたのは「冬」という季節なのだ、と数年かけて至り着いたのでした。一首の中で一字アケが二か所あるのが問題かもしれません。動詞四つは、減らせませんでした。(歌集『インフォームド・コンセント』所収)

◆表現の細部に気を配る

三男が六年のとき三鷹に越し以後四十年この地で暮らす (原作)

三男が十二のときに牟礼に來て以後四

十年牟礼で暮らせり

(改作)

狩野 健康的な時間意識のある歌で、原作のままで読めなくもないのですが、三句目の「三鷹に越し」は少し問題がありますね。「越して」とか「来て」としたところですか。仮に、三鷹の中にある小地名「牟礼」を入れてみました。また「六年のとき」も、学年を言うより年齢を言うほうが自然と思われ、「十二のとき」と直しました。でも原作は、三男を象徴的に歌い出した点、なかなか考えられた歌の作り方だと思います。

◆決まり文句は使わない

草木も眠れる庭に月浴びて解毒されゆくさやさとわれ (原作)

草木の繁れる庭に月浴びて清みゆくことしわれの心は (改作)

狩野 「草木も眠る」は、通俗的な決まり文句です。この歌では「草木」と読んでいるんでしょうね。初二句を「草木の繁れる庭に」と直しました。また「解毒されゆく」は強烈な印象を導くので、

歌の良さを殺ぐようです。ごく普通の家庭の、月の夜の庭での心模様の歌にしたと考えたのが改作です。

◆「駅へと」とは通俗的

晴れわたる日曜の朝ペダル踏み唄うた
ひつつ駅へと向かふ (原作)
冬晴れの日曜の朝ペダル踏み唄うたひ
つつ駅へ向かへり (改作)

高野 ここから私の推敲例です。原作は、晴れわたると言っています。季節が不明なので、「冬晴れの」としてみました。

結句「駅へと向かふ」はよく使う表現ですが、私は「と」という助詞が要らないと思います。調子に乗っていて、品格が無い感じ。普通に「駅へ向かへり」でいいのではないのでしょうか。これから電車に乗ってどこかへ遊びに行くのか、あるいは好きな人に会いにゆくのか、楽しいげな雰囲気のある歌ですね。

◆言葉の繋がり方に注意

眼球を動かし静かに目を閉じてみどり

ご夢の中にて笑ふ (原作)
目を閉ぢしまま眼球を動かしてみどり
ご夢の中にて笑ふ (改作)

高野 原作の「眼球を動かし静かに目を閉じて」がよく分からない。たぶん、みどりごが目を閉じたまま眼球を動かしているのだと思います。それで「目を閉ぢしまま眼球を動かして」としました。閉じた柔らかい瞼の下にある眼球が動いたんでしょね。そして笑みを浮かべた。夢を見ながら笑っているみどりごの可愛さがよく伝わってくる歌です。

春雨の降り止む朝園児等が態と踏み入るに潦在り (原作)
はるさめの降りやむあした園児らがわざと踏み入る水たまりあり (改作)

高野 原作は「はるさめのふりやむあしたえんじらがわざとふみいるにわたずみあり」と読みますが、漢字で書ける言葉は全て漢字で表記しています。これでは見た目が堅苦しいし、言葉の音楽性が押し殺されていますね。改作のように、短歌はできるだけ平仮名で書いたほうが

いい。「にわたずみ」は厳めしいので、「水たまり」に変えました。

◆述語の省略はダメです

葉書にてリクエストせし曲目がスマー
トホンで聞ける時代に (原作)
葉書にてリクエストせし曲目がスマー
トホンで聞ける世となる (改作)

高野 原作の「聞ける時代に」は、後ろに「なった」という動詞が省略されているんでしょ。言い切らないで、途中でやめるーこういう表現を「言いさし」と呼びます。「言いさし」はカッコいい、余韻がある、と思っている人がいるようですが、カッコ悪いし、余韻もないし、きわめて通俗的な表現ですね。それで「聞ける世となる」にしました。言いさしは、俳句ではOKですが、短歌ではダメですね。ここで或る人の詠んだ狂歌を紹介してこの連載を終わります。「言いさしはやめると決めて、飲みさしの酒を飲みゆく冬の夜の幸」。ご愛読ありがとうございます。

イラスト「鬼に金棒」(高野公彦画)